

令和2年度 かほく市立河北台中学校 学校評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	備考 (R1本校及び県調査結果より)
1 ★生徒の学力向上と教員の授業力向上のために取組の充	① ★校内研究会の充実 ・ 授業力向上のための研究実践 ・ 若プロ研修の充実 ・ 講師を招聘した研修会の実施	研究主任 学習研究委員会	・ 研究主題及び副題を見直し、より実態にあった研究の方向性が定まる。 ・ 生徒の実態に合った授業づくりに、より邁進していかなければならない。	【満足度指標】教職員 若プロなど、校内研修会が充実している	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	県96%
				【努力指標】教職員 課題設定や授業展開、教材教具の開発など、学習意欲の向上を図るための工夫をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	
				【成果指標】生徒 授業では、理解しようと自分で考え、自分から取り組んでいる	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
				【成果指標】生徒 先生や友だちの話を、分かろうとして聞いている	A:95% B:90%以上 C:85%以上 D:85%未満	
	② 学習指導の充実 ・ 学習意欲を高めるための取組推進 ・ 河北台授業スタイルの構築 ・ ★少人数(数学・英語)授業の有効活用	学習指導部	・ 聞く姿勢など、基本的な学習態度が身に付きつつある。今後も指導の徹底を図っていかなければならない。 ・ 授業ルールの指導を焦点化し、徹底を図っていかなければならない。 ・ 家庭学習の質・量とも十分とはいえない。指導の工夫がより一層必要である。	【努力指標】教職員 授業の中で、課題を示している	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	県98%
				【努力指標】教職員 生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	県94%
				【満足度指標】生徒 授業は分かりやすい	A:90% B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	本校92%→92%
				【成果指標】生徒 授業で互いの考えを出し合ったり、話し合ったりする時間がある	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	本校89%→89%
				【努力指標】教職員 生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	県83%
				【成果指標】生徒 自分で計画を立てて勉強している	A:80% B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	本校73%→60%
				【満足度指標】保護者 お子様は、自分で計画を立てて勉強している	A:70% B:65%以上 C:60%以上 D:60%未満	本校63%→68%
				【成果指標】生徒 平日、1日1時間以上、家庭学習をしている	A:80% B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	本校69%→65%
				【成果指標】保護者 お子様は、平日、1日1時間以上、家庭学習をしている	A:70% B:65%以上 C:60%以上 D:60%未満	本校57%→61%
				③ 学力調査の有効活用 ・ 実行力の高い学力向上ロードマップの再構成と取組推進 ・ これまでの問題の活用	教務 教科代表	・ 過去の問題を活用した指導が進められてきている。
④ キャリア教育の視点を重視した取組推進 ・ 将来の夢や希望を持つことができる指導の工夫 ・ 総合的な学習の時間の指導の工夫	総合担当 学年会	・ 総合の時間を工夫し、キャリア教育の充実を図っていかなければならない。	【努力指標】教職員 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている			
			【満足度指標】生徒 将来の夢や目標を持っている	A:80% B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	本校73%→74%	
			【満足度指標】保護者 お子様は、将来の夢や目標を持っている	A:70% B:65%以上 C:60%以上 D:60%未満	本校61%→65%	
2 様々な体験活動等を通して、豊かな心と心身とも健康である生徒を育成するための取組の充	① 外部人材の有効活用 ・ ★道徳、進路関係、健康増進、読書活動、食育などにおける専門的な分野の方を招いての取組	教務 学年主任 生徒会	・ 必要に応じて外部人材が有効に生かされている。今後も活用していく。	【成果指標】教職員 様々な体験活動において、外部人材が有効活用されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
				【満足度指標】生徒 授業や行事で専門家の人の話や活動は、より勉強になる	A:90% B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	
	② コミュニティー・スクール制度の積極的な活用 ・ PTAや生徒会と連携したボランティア活動の実施	教務 学年主任	・ 生徒会活動やPTA活動を通して、より奉仕精神を高めていかなければならない。	【努力指標】教職員 生徒にボランティア活動の積極的な参加を促すなどの推進に努めている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	
				【成果指標】生徒 生徒会やPTAなどのボランティア活動に協力できている	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
	③ ★読書活動の推進 ・ 専任司書の有効活用	図書館担当 学校司書	・ 不読率が極めて高い。まずは図書館への閲覧数、貸出数を高めていく工夫を進めていかなければならない。	【努力指標】教職員 朝読書や図書館の活用など、読書活動の推進に努めている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	
				【満足度指標】生徒 読書は好きである	A:70% B:65%以上 C:60%以上 D:60%未満	本校3年;57%
				図書室の利用度(貸し出し数、閲覧人数、不読率)	A:昨年度より20%増 B:昨年度より10%増 C:昨年度より増 D:昨年度より減	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	備考 (R1本校及び県調査結果より)
3 生徒と向き合う時間の確保と積極的なコミュニケーション	① 学年担当全員で生徒を見る体制づくり ・朝学習や給食など、学年全員で指導する体制づくり ・学年担当全員で、総合的な学習の時間の指導ができる体制構築	学年主任	・朝学習や給食など、学年全体で指導する体制ができてきた。今後も学年全体で生徒を観ていく。	【成果指標】教職員 学年担当全員で生徒を育ていく体制ができてきている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
				【成果指標】教職員 可能な限り、生徒と向き合う時間が確保されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
	② 職員室モニターの有効活用	教頭 教務	・全体朝礼に代わる有効な手段となっている。今後もより良い活用を見出す。	【成果指標】教職員 職員室モニターが有効活用されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
				【成果指標】教職員 生徒のいない(水曜日の放課後など)時に、会議が設定されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
	③ 水曜日の有効活用 ・職員関係の会議を水曜日に行うための日課の実施	教頭 教務	・放課後の会議と生徒の活動ができるだけ重ならないような工夫に努めている。	【成果指標】教職員 SCや教育相談員との連携など、教育相談体制がより良く機能している	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
				【努力指標】教職員 生徒に積極的に声をかけるなど、生徒との交流に努めている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	
	④ 生徒指導の3機能による指導の充実 ・自己決定、存在感、共感的人間関係を意識した生徒指導 ・★いじめ、不登校対策の充実 小学校との積極的な連携 専門機関との連携を図りながらの教育相談体制の充実	生徒指導部 生徒指導委員会	・不登校(傾向)生徒の割合が高い。教育相談体制の充実が図られている。 ・生徒指導主事を中心に、より一層の声掛けを促している。 ・サポートアンケートをはじめ、生徒観察をより行っていかなければならない。	【努力指標】教職員 生徒を認めたり、励ましたりしながら長所を伸ばす指導をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	県98%
				【満足度指標】生徒 先生はあなたの良いところをみとめてくれている	A:80% B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	本校3年;69%
				【満足度指標】保護者 学校は、お子様をよく理解し、指導している	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	本校77%→85%
				【満足度指標】生徒 学校へ行くのは楽しい	A:90% B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	本校86%→90%
【満足度指標】保護者 お子様は、学校へ行くのが楽しいと言っている				A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	本校87%→84%	
【成果指標】生徒 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う				A:100% B:95%以上 C:90%以上 D:90%未満	本校94%→96%	
4 ★多忙化改善のための体制構築及び推進	① 働き方改革の推進 ・校務分掌の役割分担の平準化 ・学校CNの活用促進 ・★PC活用の授業やペーパーレス会議等、ICT環境の整備	教頭 学校評価委員会	・昨年度の見直した役割分担でスタートした。今後検証していく。 ・学校コーディネーターにも専属の役割を与えた。特に施設管理面や会計関係を担うこととした。	【成果指標】教職員 校務分掌の役割分担が適切で、効果的に運用されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
				【成果指標】教職員 学校コーディネーターが有効活用されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
				【成果指標】教職員 ICT環境の整備で、業務が効率化されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
				【努力指標】教職員 勤務時間外を少なくするなど、面談シートで示した各自の働き方改革に関する目標達成に向けて取り組んでいる	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	
				【成果指標】教職員 勤務時間外時間の比較	A:H30より30%減 月80時間超ゼロ B:H30より10%減 月80時間超10%未満 C:H30より減 月80時間超10%以上 D:H30より増 月80時間超20%以上	勤務時間外時間の平均 R1は、H29より 22.7%減、H30より 1.4%減
	② コミュニティスクールプランの有効活用 ・用 学習支援スタッフの活用	校長 教頭 教務	・昨年度、元教員や学生による学習支援スタッフが有効活用された。今年度も継続していく。	【成果指標】教職員 学習支援スタッフが有効活用されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	
	③ 新型コロナウイルス感染症対策の実施 ・教育課程の見直し、行事の精選、適切な感染症対策の検討	校長 教頭 教務	・各自、学校再開に向けて準備を整えている。	【努力指標】教職員 先を見通して、授業をはじめとする教育活動をすすめている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	